




令和3年度いきものガイドウォーク

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
4	24	佐藤 辰尾	テーマ: ※コロナにより中止			
5	22	河野 芳野	テーマ: ※コロナにより中止			
6	26	久保 善宝	テーマ: ※コロナにより中止			
9	25	芳野 佐藤	テーマ: ※コロナにより中止			
10	23	辰尾 渡辺	<p>テーマ:秋色の公園を楽しむ ~秋の気配と樹の実観察~</p> <p>天候:晴、参加者6名。(※事前申込制、集合時に検温実施)</p> <p>この数日前からすっかり秋の空気に変わり、当日も好天でした。果実等(果実、ドングリ、松ぼっくり、銀杏など)を中心に観察。果実の特長や種子の散布方法(野鳥、動物、風)などについて解説しました。最後に、雑木林のナラ枯れの状況について見学して終了としました。</p> <p>観察したもの:ピラカンサ、モッコク、モミ、ケヤキ、マテバシイ、イロハモミジ、イチヨウ、エノキ、ヒマラヤスギ、ユリノキ、コスモス、ヒナツチガキ(キノコ)、フユノハナワラビ(シダ)など。</p>			
				裂開途中のモッコクの実	エノキの実を食べるアオゲラ	(点線のルートが今回のコース)
11	27	善宝 河野	<p>テーマ:秋色の公園を楽しむ ~晩秋の公園の彩り~</p> <p>天候:晴、参加者13名。(※事前申込制、1名当日参加)</p> <p>今年は暖かい日が続いていましたが、本日は冬型の気圧配置。風は冷たいものの、青空の下さわやかな観察会でした。紅葉のハゼノキ、ヤマザクラ、黄色いエノキ、イチヨウ、常緑のマテバシイ、ユーカリなどを観察。赤いトキワサンザシやカナメモチの実、濃紺のエノキ、茶色のウラジロモミ、マテバシイの実を観察。銀杏が目立つのに実が落ちていないのは雌雄のためなどを説明。最後にサザンカとツバキの違いと、その葉を好むチャドクガの話で締めくくりました。 お子さん2名参加、コアラの話、マテバシイとスダジイのドングリの食べ比べが好評でした。</p>			
				紅葉の美しいハゼノキ(ウルシ科)	コアラの主食ユーカリ(数種)	
12	18	松本 久保	<p>テーマ:お正月を寿ぐ植物</p> <p>天候:晴れ、参加者4名(5名ほど、取消があった模様)寒かったが、日の当たる場所で、説明を実施することを心がけ、楽しかったとの評価を頂いた。</p> <p>飛行機の所で、正月飾り(鏡餅、門松、しめ飾り)と正月を寿ぐ緑色4種類の植物・赤い実4種類の植物・花8種類について説明し、スタート。ロウバイ園でロウバイと水仙を観察。ロウバイ・水仙は花を咲かせていた。又、目測と計測機を使用してヒマヤラスギの樹高を測定した。日本庭園で、モウソウチク・オカメザサ・梅・南天・マンリョウ・松などを観察、まだ芽を出していない福寿草についても写真を使用し説明した。又、杉の所で杉の価格について話をした。次に図書館から万葉植物園を歩き、スタート時点へ戻り解散した。途中、サザンカの花・クスノキ・カラタチ・ハゼノキの紅葉などを観察。参加者からのリクエストがあり、担当の溝口様の許可を頂き、11時50分の解散となった。</p>			
				スイセン(水仙):ヒガンバナ科スイセン属、まだ寒い冬に花を咲かせる。古くから正月を飾る花。球根が中国から海流によって漂着したものが野生化したとの説がある。	ソシンロウバイ(素心蠟梅):ロウバイ科ロウバイ属、梅より早く春を告げる花。うっとりするぐらいの甘い香りがし、正月を飾る花として愛されてきた。ロウバイは花の中央部の花心が暗紫色なのに対して、ソシンロウバイは黄色。花弁が丸く、芳香が強い。	

1	22	渡辺	辰尾	<p>テーマ：冬の公園の楽しみ方 ～バード・ウォッチングのススメ～ 天候：晴、参加者7名。（※事前申込制、集合時に検温実施）</p> <p>この前日からコロナのまん延防止等重点措置が適用され開催が危ぶまれましたが、無事実施となりました。 天候は、連日の強風も止み良い鳥見日和となりました。野鳥もよく現れ、アトリ、カワセミ、アオサギ、ジョウビタキなどフィールドスコープを通じて観察できました。参加者に1名小学生のお子さんがおり、上手にアトリ、アオサギの絵を描いておりました。 (その他観察したもの) ドバト、シジュウカラ、ハクセキレイ、マガモ、モミの木など</p>			
2	26	佐藤	善宝	テーマ：			
3	26	河野	松本	テーマ：			

カワセミ（翡翠）のオス

マガモ（手前3羽がオス、奥2羽がメス）

点線が今回のコース